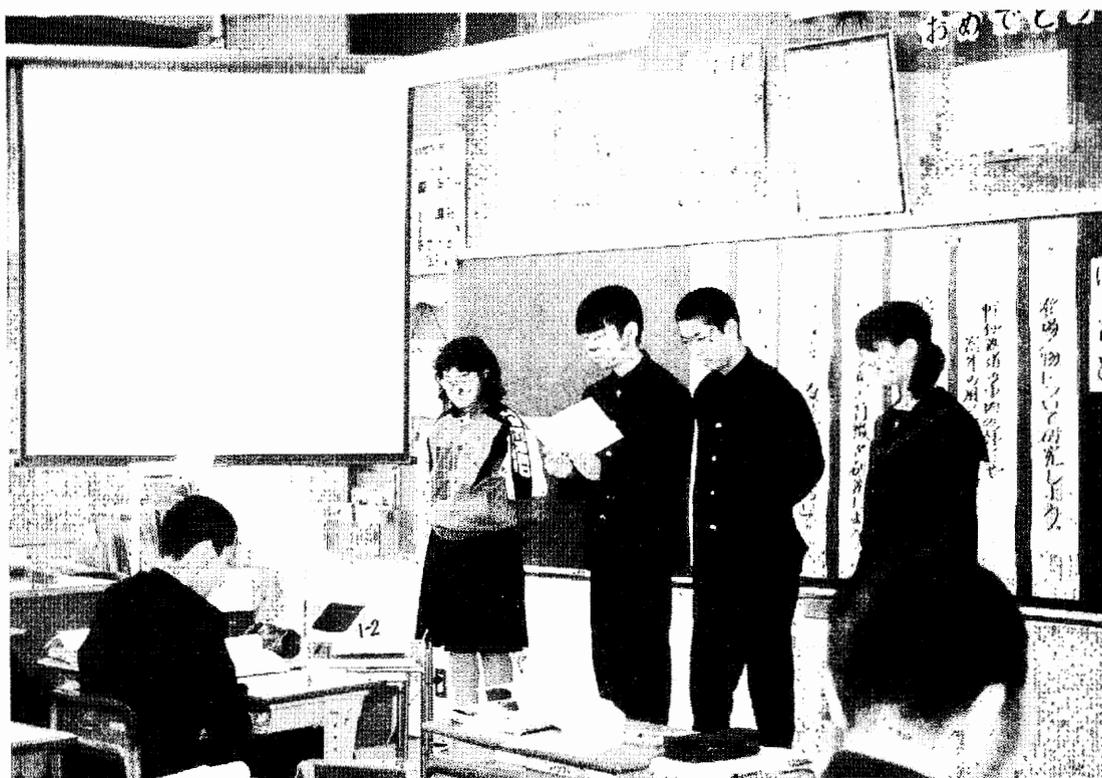


(中学国語科)

## 「伝え合う力」を高める国語科学習の工夫

—学校図書館を活用した「調べ読み」を通して—



浦添市立教育研究所 教育研究員

浦添市立仲西中学校 金城孝子

## 目次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す生徒像	2
III	研究の目標	2
IV	研究の仮説	2
1	基本の仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	
1	伝え合う力について	4
2	伝え合う力を育てるための「読むこと」の指導工夫	4
3	読むことの具体的な力	4
4	新中学校指導要領について	5
5	情報活用能力を育てる国語科学習	6
6	国語科情報活用能力体系表	6
VII	授業実践	
1	主題名	9
2	主題設定の理由	9
3	単元構成と時間配当	9
4	指導目標(評価の規準)	9
5	教材名	10
6	教材について	10
7	学級の実態	11
8	学習指導と指導の工夫	11
9	指導計画	13
10	本時の目標	15
11	本時展開	15
12	本時の評価	17
VIII	研究の考察	
1	仮説の検証	17
IX	研究の成果と課題	
1	成果	19
2	課題	20

おわりに

引用・参考文献

# 「伝え合う力」を高める国語科学習の工夫

－ 学校図書館を活用した「調べ読み」を通して －

浦添市立仲西中学校 金城孝子

## 【要約】

本研究は、伝え合う力を高める授業で、学校図書館を活用した「調べ読み」の国語学習を通して、主体的に学習を進める力と態度を身につけ、互いの立場や考えを認め尊重できる生徒の育成を目指した授業の工夫を試みるというものである。授業実践では、課題解決に必要な情報を集めるために学校図書館を活用し、様々な文章を調べるために読み取り、自分のものの見方・考え方を交流し「読み」を深めていく過程の中で、「調べ読み」の読み方が身につけ、伝え合う力を高めることができた。

### キーワード

□伝え合う力

□学校図書館

□情報活用能力

□調べ読み

## 1 テーマ設定の理由

現代は情報化時代といわれている。種々の情報が飛び交い、激しく変化する社会の中で、学校の週5日制の下、「ゆとり」の中で特色ある教育を展開し、「生きる力」の育成を図ることが求められている。教育課程審議会では、これからの国語科教育の基本方針を「小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を重視し、国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てると共に、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することに重点を置いて内容の改善を図る」と挙げている。「伝え合う能力」の育成とは、自分の思いや考え方を的確に表現・伝達すると共に、相手の立場を尊重しつつ、言語を通して考えを的確に理解する能力・態度を育てることである。つまり、「伝え合う能力」の育成は「話すこと・聞くこと」の領域に関係するだけでなく、「書くこと」、さらには、その基盤となる「読むこと」の領域にも深く関わる。

今回の改訂では基盤となる「読むこと」の領域において①目的や意図に応じて内容を的確に読む能力の育成②読書に親しむ態度の育成③「情報の活用」に関する指導事項の新設④学校図書館の機能の活用など、新学習指導要領における改善の方向が挙げられている。これを受け、新学習指導要領「読むこと」の目標では、国語を的確に理解する能力を育成することを中核として、情報活用能力の育成、読書生活の向上をも包含している。つまり、学校図書館の果たす役割は重要といえる。これは、学校図書館を活用することにより、生徒の主体的な言語活動が展開される国語科の授業を創ることを目指している。国語科は改めて、学校図書館の有する「学習・情報センター」「読書センター」としての機能に注目し、その十分な活用を図る必要がある。

しかしながら、過去の授業において、生徒の意欲的な授業参加を目指して学校図書館を活用した「読書活動」「調べ学習」にも取り組んだが、年間を通して1、2回程度の単発的な活動では、その時間、生徒が意欲的、効果的に授業に取り組んでもそれを継続させるまでには至らなかった。また、「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の改善」も今回の改革の一つとして挙げられているが、日々の授業の中で、読解などの学習活動が形式的に行われていたと言われても否めない。

平成14年度から施行される新中学校学習指導要領において国語科では、「A話すこと・聞くこと」や「B書くこと」において、説明や発表、討論、記録、報告などの学習活動を行うために必要な資料等を求め活用したり、「C読むこと」の学習活動において、発展的な読書活動を展開し教科書教材を補充する文章を探したり、「言語事項」の学習において、言葉調べや言葉の特色について調べたりすることなど、各領域において計画的に学校図書館を活用する必要があると示されている。生徒は、効果的に学校図書館を活用することで資料の集め方や調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方を学び、主体的に学習を進める力と態度を身につけ、「目的や意図に応じて」情報を読み取り再構築して自分の考えを発信する能力を育てていくことになる。学校図書館を効果的に活用し、様々な種類の文章から必要な情報を読み取るための「調べ読み」を身に付け、伝え合う力を高める国語科授業の工夫改善を図りたいと考え本テーマを設定した。

## Ⅱ 目指す生徒像

主体的に学習を進める力と態度を身につけ、互いの立場や考えを認め合い尊重できる生徒

## Ⅲ 研究の目標

学校図書館の活用を計画的に系統立てて取り入れ、生徒自ら多様な読みの視点で情報や資料を活用する「調べ読み」を通して読みを深め、自分のものの見方や感じたこと、考えたことを交流する学習を行う中で、伝え合う力を高める国語科学習の工夫を研究する。

## Ⅳ 研究仮説

### 1 基本仮説

課題解決に必要な情報を集めるために、学校図書館を計画的・系統的に取り入れ、目的や意図に応じて「調べ読み」を行い、交流学习を取り入れる授業の工夫を通して、各自の読みとりが自分のものの見方や考え方を深めたり、別の読み方に気付いたりして、伝え合う力を高めることができるであろう。

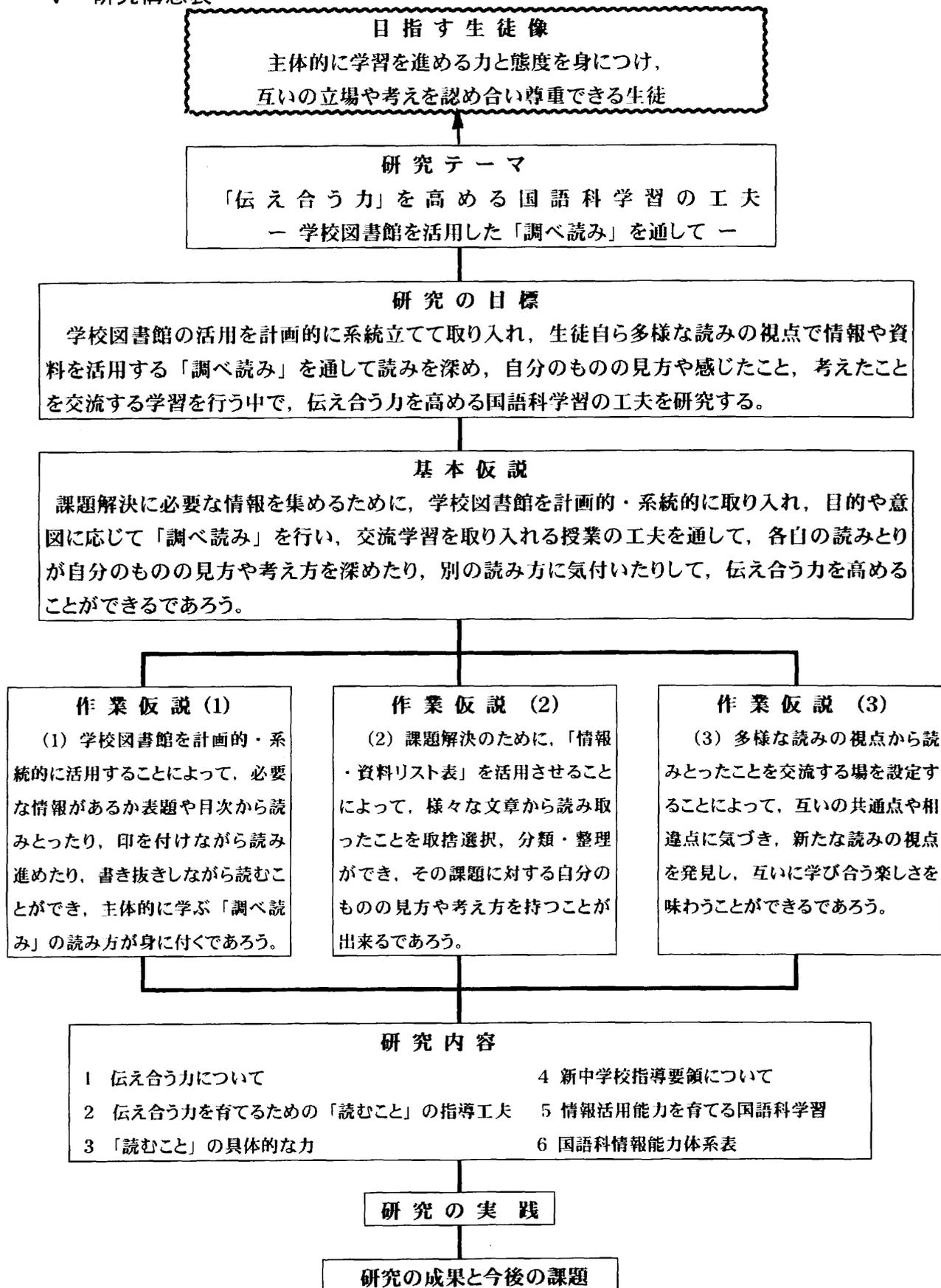
### 2 作業仮説

(1) 学校図書館を計画的・系統的に活用することによって、必要な情報があるか表題や目次から読みとったり、印を付けながら読み進めたり、書き抜きしながら読むことなどができ、主体的に学ぶ「調べ読み」の読み方が身に付くであろう。

(2) 課題解決のために、「情報・資料リスト表」を活用させることによって、様々な文章から読み取ったことを取捨選択、分類・整理ができ、その課題に対する自分のものの見方や考え方を持つことが出来るであろう。

(3) 多様な読みの視点から読みとったことを交流する場を設定することによって、互いの共通点や相違点に気づき、新たな読みの視点を発見し、互いに学び合う楽しさを味わうことができるであろう。

## V 研究構想表



## Ⅶ 研究内容

### 1 伝え合う力について

河野庸介氏によれば「伝え合う力」は、「国語で適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤とし、それぞれの間関係の中で互いの立場や考えを尊重しつつ、言葉によって互いに伝達し、分かり合うことを可能とする言語能力を意味している。」と述べている。つまり、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の表現力と、「読むこと」という理解力の能力を総合した力であるといえる。

### 2 伝え合う力を育てるための「読むこと」の指導工夫

#### (1) 主体的な読み手を育てる授業

受動的な授業活動を能動的・創造的な活動へ授業の中に仕組んでいくことが大切である。そこで、体験的な学習や課題解決的な学習を取り入れたり、また、課題を選択したりするような学習活動が有効になってくる。

#### (2) 目的や意図に応じて的確に読みとる授業

「中学校新教育課程の解説国語」の著書の中で河野庸介氏は、「目的や意図に応じて」の読みとして①文章の概略を把握するために読む ②抜き書きしたりメモを取りながら読む ③文章の細部にまで詳細に読む ④文章中の情報を素早く得るために読む を挙げ、前途に上げた①～④の「多様な読み」が、多様な形態の文章を主体的に読むという「積極的な読み」へとつながると述べている。

#### (3) 「読むこと」と「話すこと・聞くこと」「書くこと」の表現活動が関連し合う授業

多様な言語活動を通して生きてはたらく言葉の力を育てるためにも、他の領域と関連させていく学習が重要である。「読み」の指導過程の中に表現活動を取り入れ互いに伝え合うことにより、「読み」が明確化されたり、表現活動の目的や方法に応じた読み方も可能になる。

#### (4) 「読み」取ったことを伝え合うことによって「学ぶ」授業

「読むこと」において各自の読みとりが、読みを放任するかたちになる場合がある。読みとったことを他に発信し、互いにその差異を言葉に注目しながら吟味していく活動で、自己の読みを深めたり、読みの誤りに気づいたり、さらには互いに認めあったりしていけると考える。

### 3 「読むこと」の具体的な力（相沢秀夫氏より）

- (1) 叙述に即して的確に文章を読む力
- (2) 目的や意図に即して必要な箇所を取り上げ、要約したり引用したりできる読みの力
- (3) 言葉の表現、事例を手がかりに書き手の意図や理論の展開を読み解く力
- (4) 「目次読み」や「索引読み」を手がかりに必要な情報を収集できる読みの力
- (5) 辞書や資料を読み比べる力
- (6) 読書に親しむ態度

#### 4 新中学校指導要領について

##### (1) 「読むこと」における各学年の目標

学 年 目 標	
1学年	様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めると共に、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。
2学年及び第3学年	目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身につけさせるとともに、読書を生活に役立てて自己を向上させようとする態度を育てる。

##### (2) 「読むこと」における言語活動例について

- (ア) 様々な文章を比較して呼んだり、調べるために読んだりすること。
- (イ) 目的や必要に応じて音読や朗読をすること。

「中学校新教育課程の解説」の中で河野庸平氏は以下のように述べている。

##### (ア) について

##### ① 「比較して読むこと」と「調べるために読むこと」

「比較して読むこと」は、多様な対象（文章の種類や文体）と多様な読み方（人による読み方の違いや作品による読まれ方の違い）の両方の比較する経験を通して、効果的で適切な思想の表現や情報の伝達について感得させることがねらいである。

また、「調べるために読むこと」は、読み手の抱いた問への答えを求めようとするための読みがねらいとなる読みをさしている。

##### ② 思考力や想像力を養うための「読み」

国語科の目標には、国語科の学習を通して思考力や想像力を養うことが挙げられている。しかし、これまでの教育の中では、思考力の面ばかり強調され、創造や発見につながる想像力の面が重視されていない部分があった。「読む」活動が、各自のもの見方や考え方を広げることにつながらなくてはならない。

##### ③ 学校図書館やその他の情報源の活用

「比較して読むこと」と「調べるために読むこと」を実現させるためには、学校図書館や人的・物的情報源の活用は重要である。

##### ④ 読書指導の観点を考慮する

「読書に親しむ態度」の育成が強調された。読書の目的を具体的に示して読書活動に取り組ませたり「情報の活用」を具体化する読書活動の場を設けたりする。

##### (イ) について

音読や朗読は、自分自身の「声」を聞くことによって理解の成果を確かめるとともに、聞かせることにより、読むことによって理解された成果を共有することができる。

##### (3) 「読むこと」の指導事項

	第 1 学 年	第2学年及び第3学年		第 1 学 年	第2学年及び第3学年
語句の意味や用法	ア 文脈の中における語句の意味を正確に捉え、理解すること。	ア 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い	表現の仕方		ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

		方に役立てること。	主 題 や 要 旨 と 意 見	エ 文章の展開を確か めながら主題を考えたり 要旨を捉えたりすること。	エ 文章を読んで人間、社 会、自然などについて考え、 自分の意見をもつこと。
内容把握 や要約	イ 文章の展開に即し て内容を捉え、目的や 必要に応じて要約するこ と。		もの見 方や考え	オ 文章に表れている ものの見方や考え方を 理解し、自分のものの 見方や考え方を広げるこ と。	
構成や展 開	ウ 文章の中心の部分 と付加的な部分、事実 と意見などを読み分け て、文章の構成や展開 を正確に捉え、内容の 理解に役立てること。	イ 書き手の理論の展開の 仕方を的確に捉え、内容の 理解や自分の表現に役立て ること。	情 報 の 活 用	カ 様々な種類の文章 から必要な情報を集め るための読み方を身に つけること。	オ 目的をもって様々な文 章を読み、必要な情報を集 めて自分の表現に役立てる こと。

#### (4) 図書館を活用する

「学校図書館の機能活用」については新学習指導要領の「指導計画の作成上の配慮事項」の一つとして示され、これからの国語科の学習に欠くことのできないものとして位置づけられている。「生徒は、学校図書館などを活用して学習することを通して、資料の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方などの学び方や考え方を身につけると共に、自らの力で論理的に考え判断する力、自分の考えや思いを的確に表現する力、今まで気づかなかったことや分からなかったことをについて新たに関係があることなどを発見し解決する能力などを身につけることができる。」(中学校新教育課程の解説 国語) 今後は、図書館の学習をどういった単元でどのように組むか、どのような課題で学習を展開するか、どのようなまとめ方をするのか、各自が調べたことをどう交流させるかなど、学校図書館の活用を計画的に系統立てて、国語科の年間計画の中で位置づけていかなければならない。

#### 5 情報活用能力を育てる国語科学習(新単元学習論より)

神戸大学附属住吉中学校国語科では、「読む・書く・聞く・話す」という4つの言語能力と情報活用能力を合わせて養うことを目標とした学習の取り組みを実践している。それを通して身につけさせたい力5点(課題発見力・学習計画力・資料(情報)収集力/選択力/再構成力・まとめる力・意思表明力)を単元の中で学習形態などを工夫して系統立てて実践している。

#### 6 国語科情報活用能力体系表

「伝え合う力」の育成は、「自ら学ぶ主体的な学習」へ展開していかなければならない。そのためには、自ら課題を見つけて解決する「情報活用能力」が子どもたちに備わっていないといけない。そこで、文部省(平成9年7月20日発行)から出された「学校図書館の利用と指導の内容」を情報活用能力と国語科の観点から見直し、前述してある住吉中学校国語科が提唱する「5つの力」を念頭に置いて、系統立てた「国語科の情報活用能力体系表」を作成した。情報活用能力を「A 情報・資料の種類と構成」「B 情報・資料の機能と役割」「C 情報・資料の把握」「D 情報・資料の検索と利用」「E 情報・資料の収集」「F 情報・資料の表現と伝達」「G 情報・資料の保存」の7領域、具体的な指導事項を29項目にわけ、国語科の授業を通して具体的に指導していく中で一人ひとりの子どもに、伝え合う力の育成を目指した「情報活用能力」を身につけさせていくようにする。

# 国語科の情報活用能力の体系表

(表1)

	領域	項目	指導事項
A	情報・資料の種類と構成	1. 図書館資料の種類構成が分かる	① いろいろな種類の図書資料があることを知る。 ② 十進分類法による配架の仕方や請求番号の見方を知る。 ③ 目次・序文・あとがき・本文・索引など、図書資料の構成が工夫されていることを知る。
		2. 図書以外の資料の種類と構成が分かる	① 新聞・雑誌・定期刊行物・パンフレット・地図などの印刷物があることを知る。 ② カセットテープ・ビデオテープ・コンピュータ用フロッピーなどがあることを知る。 ③ 見学や教材などを通して、人から聞いた話も情報として生かせることを知る。
B	情報・資料の機能と役割	1. 学校図書館の機能と役割を知って利用する	① 学校図書館のきまり、貸し出しや返し方や返却のきまりを知って進んで利用する。
		2. 公立図書館の機能と役割を知って利用する	① 自分の住んでいる地域にある公立図書館を知り、入館、貸し出し、返却などの利用方法などについて理解し、進んで利用する。 ② 学校図書館で入手できない図書や資料を探せる施設として、積極的にかつ有効に活用する。
		3. 地域の文化施設の機能と役割を知って利用する	① 地域を理解する場所において、博物館・美術館・公民館・児童館などの公共施設のある場所を知り、利用する。
		4. パソコンの機能と役割を知って利用する	① 幅広い情報の収集の一つの手段としてパソコン活用のマナーを守り、有効に活用する。
		5. いろいろな情報源を知って利用する	① 知識や情報・資料を得るために公的な施設以外に地域の特徴のある場所や物や話を聞ける人目に目を向け活用する。
C	情報・資料の把握	1. 情報・資料のおおよそをつかむ	① 書名・目次・索引などから必用な資料の内容を予想したり、大まかに内容をつかんだりすることが出来る。 ② 地図やグラフから内容をつかむことが出来る。 ③ 画像・映像などから内容をつかむことが出来る。
		2. 疑問や調べたいことを見つけ課題をつかむ	① 情報・資料から疑問や調べたいことを出し合い、課題をつくること出来る。 ② 課題の焦点を明確にする。
		3. 文章の展開の仕方をつかむ	① 事柄の意味、場面の様子、登場人物の心の変化など、内容や各段落の相互の関係をつかむ。 ② 内容の移り変わりや文章構成、意見などを推し量って全体をつかむ。
		4. 文章表現の特徴に気づく	① 言葉や表現の技法に注意しながら読みとる。
		5. 文章の内容をつかむ	① 語句を手がかりに大事な内容を押さえ、段落相互の関係を考え、要点や中心点を正確につかむ。 ② 文章の表現や構成などから原因と結果の関係をつかみ、筆者の考えを読みとる。
D	情報・資料の検索・利用	1. 図鑑を利用する	① 学習課題を追究する場面において様々な図鑑で課題にあった項目を探し出し、必要な部分の引用・要約をする。 ② 課題解決に適する図鑑を探し活用する。
		2. 国語辞典・漢和辞典などを利用する	① 国語辞典・漢和辞典の構成や特性を知って調べる。 ② 日常の学習や生活上の問題から分からない言葉や漢字を調べるのに進んで利用する。 ③ 新しい単元に出てきた新出漢字の読み書き、語句、言葉の意味などを調べる。
		3. 百科事典、専門事典を利用する	① 百科事典や学習事典のいろいろな種類を知り調べる。 ② 目次や索引を使って各辞典で課題を調べる。 ③ 調べたいことについて、百科事典、人名事典などの目的にあった正しい引き方で能率良く利用し、必要な部分の引用・要約をする。 ④ 現代情報雑誌、用語事典などを利用し学習に役立てる。
		4. 年鑑を利用する	① 年鑑の種類、構成について知り利用する。 ② 様々な年鑑や統計沖繩などの情報・資料を目次や索引を正しく利用して必要な部分の引用・要約

			をする。
		5. 参考図書を利用する	① 様々な領域のシリーズなどの参考図書の中から、目次や索引を利用してまとめる。
		6. 図書資料の検索・利用をする	① 前書き、後書き、解説などを利用してその本が課題をしらべるのに適しているか判断し、目次、索引などから検索する。
		7. 図書以外の検索・利用をする	① 新聞、雑誌、テープ、ビデオなどの特色を知りその利用に慣れる。 ② 図書以外の情報から様々な資料を効果的に使う。
		8. 目録・資料リストなどを利用する	① 書名目録や著者目録を利用し、学習目的にあった事項を見つけ調べる。
E	情報・資料の収集	1. 必要な情報・資料を集める	① 学習課題を調べるときに図書だけでなく、図書以外の資料にも情報源として目を向けて収集する。
		2. 情報・資料を分類する	① 共通点や相違点、順序などを手がかりにして分類する。
		3. 情報・資料の選択をする	① 種類の情報・資料の中から、課題にあったものを選びその関連性をつかむ。
		4. 記録の取り方を工夫する	① 図書館資料の引用・要約したことを正しく記録する。 ② 事実と自分の考えを区別して記録することができる。 ③ 他の考えの共通点・相違点を記録する。 ④ 見たことや聞いたことに自分の考えも付け足しながら必要に応じてメモする。 ⑤ 箇条書きにしたり、自分の言葉でまとめたりする。
F	情報・資料の表現と伝達	1. 目的に応じた表現の仕方を工夫する	① 目的や意図に応じて適切に話す。 ② 聞き手にも内容が良く伝わるように工夫して朗読する。 ③ 意図がはっきり分かるように問題点、具体例、主観、感想などを区別して効果的に書く。 ④ 目的に応じて語句を効果的に使ったり構成を工夫したりして書く。 ⑤ 報告文や説明文、意見文など目的に応じた適切な表現方法を選んで表現する。 ⑥ 新聞や雑誌のコピーや切り抜き、図表やイラストなどノートやカードに効果的に取り入れる。 ⑦ 構成やレイアウトを考えて資料としてまとめる。 ⑧ 他の人から得た情報を分かりやすくまとめたり、付け加えたりしながら資料の内容を充実させる。
		2. 目的に応じた伝達の仕方を工夫する	① 相手や目的に応じて全体の構想を考え効果的に表現する。 ② 主題や要旨をはっきりさせたり、感想と意見を区別したりして筋道を立てて伝える。 ③ 集団の中でお互いに対する思いやりの気持ちをもって意見を出し合う。 ④ 情報・資料の適切な伝え方を選び、学習課題に応じた効果的な伝え方をする。
G	情報・資料の保存	1. 資料リストの作成の仕方を工夫する	① 書名・作者名・発行所名・ページ数などをいれ、学習に必要な資料リストを作成する。 ② 必要なリストの形式や作り方などを工夫する。
		2. 資料の保存の仕方を工夫する	① 用途に適した資料の保存方法を考え保存する。
		3. 資料の蓄積の仕方を工夫する	① 活用の目的によって大事な資料を蓄積する。

○ 尚、この「情報活用能力体系表」作成にあたっては、以下の資料を参考に学校の現状と合わせ、国語科における基礎基本を念頭において作成した。

- ・「小学校、中学校における学校図書館の利用と指導」 文部省
- ・「子どもが生きる学校図書館」 ぎょうせい
- ・「平成5年～7年 浦西中学校研究資料」
- ・「情報活用能力を育てる国語科新単元学習」 明治図書
- ・「新学習指導要領 国語」
- ・国語 基礎基本事例集 沖縄県教育委員会（平成14年度改訂版）

## VII 授業実践

- 1 単元名 「豊かな読書・表現活動を」 実施クラス 仲西中学校 1年2組 37名  
 実施日 平成14年 1月16日 (水)

### 2 単元設定理由

国語科の目標には、「思考力や想像力」を養うことが述べられている。生徒の思考力を高め、想像力を育てていく上で大きな役割を果たしているものの一つとして読書があげられる。しかし、情報を映像や音声で受け取ることが多くなった現代社会では、生徒の読書離れ、活字離れもいよいよ深刻になってきている。

国語学習の時間でも、思考力の面ばかり強調されていた部分もあった。これからは、想像力を含めた広い意味での思考力の育成が、「生きてはたらく力」としての言葉を習得させる国語科の目標となる。つまり、文章の内容を的確に、そして客観的に理解する能力（思考力）だけでなく、「読む」活動が一人ひとりのものの見方や考え方を広げること（思考力+想像力）につながらなくてはならない。

それを踏まえてこの単元は、これまでも培ってきた「読む・書く・聞く・話す・調べる」等の能力を発揮して、各自の主体的な「読む」活動の展開を試みる。生徒各自が読みの楽しさを享受するための手段として、課題を解決する過程において、「目的や意図に応じて」の読みを行い、読みとったことを伝え合うことにより各自の「読み」が明確化される授業展開の工夫を図る。そこには、その課題解決のために学校図書館の活用を重視し、意図的・計画的に取り入れていきたい。課題解決のために調べるための本の「読み方」の指導は、生徒一人ひとりの「主体的な読み」を支えるものである。図書館にあるたくさんの本を、自分の目的に合わせ読み替え、それを情報として読み取り、更に、各自の読みを表現・交流させることで、互いに学び合う楽しさを味わうことができるだろうと考える。

### 3 単元構成と時間配当

- 銀河鉄道の夜 6時間 グループ調べ読み
- わたしの宮沢賢治 4時間（発展）個人調べ読み  
（読書紹介新聞）



### 4 指導目標（評価の規準）

観 点	国語への 関心・意欲・態度	読 む	話す・聞く	書 く
評価基準、 評価方法等 の研究開発 (中間整理) より	・国語に対する関心に 良くを深め、国語を尊 重し、進んで表現したり 理解したりすると共に、 伝え合おうとする。	・目的に応じて様々な文章を的確に 読みとったり読書に親しんだりする。	・自分の考えを豊かにし たり深めたりして、目的 や場面に応じ、筋道を立 てて話したり的確に聞き 取ったりする。	・自分の考えを豊かにしたり 深めたりして、相手や目的に 応じ、筋道を立てて適切に 文章に書く。
中学一年生 における達成 目標 (指導要領 学年目標よ り)		・様々な種類の文章を読み内容を的確に 理解する能力を高めると共に、読 書に親しみものの見方や考え方を広 げようとする態度を育てる。	・自分の考えを大切に し、目的や場面に 応じて的確に 話したり聞いたりする能 力を高めると共に、話し 言葉を大切にしようとする 態度を育てる。	・必要な材料を基にして自 分の考えをまとめ、的確に 書き表す能力を高めると共 に、進んで書き表そうとする 態度を育てる。
本単元にお ける指導目標	・読書に対する興味・ 関心・意欲を持ち、普 段の生活でも進んで読 書活動を行おうとすること ができる。	・まとまった作品を読み通し、話の展 開・筋道にそって情景・心情の表現 を味わったり、人物像をとらえてその 生き方を考えたりすることができる。	・友だちの発表を聞いて、自分の 考え方と同じ 点・異なる点を知り、自 分のものの見方や考え 方を広げることができる。	・読みとった要点やあらす じ、受け取った印象、感じ たことや考えさせられた事な どを、言葉や文を整えてはっ きり解るように書きとめること

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に込めた作者のねらい（主題）や、表現に表れた作者のものの見方や、考え方など受けとめ、それに対する自分の見方や考え方を確かめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えた事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること。（内容イ）</li> </ul>
本教材における指導目標（指導要領各領域の内容より）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を集めるために、学校図書館を積極的に活用するなどして、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の展開を確かめながら主題を考えたり、要旨をとらえたりすること。（内容エ）</li> <li>・文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること。（内容オ）</li> <li>・様々な種類の文章から、必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。（内容カ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体と部分、事実と意見との関係に注意して、話したり聞き取ったりすること。（内容ウ）</li> <li>・自分の考えや気持ちを的確に表すために、適切な材料を選ぶこと。（内容ウ）</li> <li>・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすくわかりやすい文章にすること。（内容エ）</li> </ul>
本単元にかかわる基礎基本事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の叙述に即して展開を押さえながら主題について豊かに考えること。</li> <li>・書き手のものの見方や考え方をとらえ、共感したり批判したりしながら自分のものの見方や考え方を広げること。</li> <li>・読書に親しむ態度を育て、読書生活を豊かにするための基礎を培うこと。</li> <li>・様々な文章から必要な情報を素早く集めるための読み方を身に付けること。</li> <li>・表題や目次を読んで必要としている情報が有るかどうかが判断したり、印を付けながら読み進めたり、抜き書きしたりしながら読むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度まとまった内容を持つ話の構成や論理の展開に注意しながら的確に聞き取ること。</li> <li>・相手の話を注意深く聞き、自分の考えをまとめること。</li> <li>・取り上げた課題についてメモしたり、カードにまとめたことを取捨選択したり、種類別に整理、系統立てるなどの作業を通して自分の考えや気持ちを確かめること。</li> <li>・だれに、どんな目的で、どんな内容を伝えたいかをはっきりさせるとい相手意識や目的意識を明確にして選材すること。</li> <li>・文字の表記の仕方、漢字とかなの使い分けが正確であるか、語句の選び方や使い方が的確で効果的であるか、読み返し検討すること。</li> <li>・友人と相互に文章を読み合い自分とは異なる題材の捉え方を参考にすること。</li> </ul>
本単元における評価の規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を集めるために、学校図書館を積極的に活用するなどして、進んで読書に親しみものの見方や考え方を広げようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手による印象の違いや表現上の違いなどの特徴を捉えている。</li> <li>・自分の感じたこと、考えたことを文章に書いて表現するために、作者の感じ方や表現の仕方を読み味わうことができる。</li> <li>・興味をもったことや疑問に思ったことなどについて、報告書などでまとめたりするための材料を集めるために読み、抜粋している。</li> <li>・物語についての理解をふかめるために、作者の生い立ちや生活のようす、時代背景などについて、図書館の資料などを読んでいます。</li> <li>・収集した材料をメモやカードにまとめ、それを更に取り捨選択したり、種類別に分類・整理したりする作業を通して、より客観性のある材料を選んでいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたい内容が聞き手にも印象深く伝わるように、全体の構成を考え、引用部分や感想部分も工夫している。</li> <li>・伝えたい内容の中心をはっきりさせ、それを裏付けるように、全体の構成を考えたデータや感想部分のあるデータを整理している。</li> <li>・書いた文章を読み直し、よりわかりやすい的確な文章にしている。</li> </ul>

5 教材名

銀河鉄道の夜

6 教材について

(1) 教材観

「銀河鉄道の夜」は、幾度も劇化や映画化、アニメーションにも脚色された宮沢賢治の代表作である。現実をはるかに超えた世界を描きつつ、現実生きることを啓示する。これから新たな時代に向かおうとする生徒たちの夢や不安に共鳴し、生きることを問いかけてくる。甘い感傷と厳しい現実認識の両面を併せ持つこの作品は、自己形成の時期に入ろうとする生徒たちに問題提起をする作品といえよう。

主人公ジョバンニが夢に見た星巡りの旅は、カムパネルラをはじめ様々な人々が列車の進行と共に現れては消えていく幻想的な星空間を舞台とする。唯一の生者たるジョバンニは様々な死の像と交感し、ついには現実の生へと帰還する。死者たちは、自ら犠牲にした死を背負い、生きることを意味を投げかける。この作品は、「他者のために生きる」という視点を与えてくれる。ジョバンニは遠く異空間まで使者と同行しつつ、結局は現実への帰還を余儀なくされるという生者の悲しみを背負っている。そこには賢治の現実の世界がうかがわれる。最愛の妹トシの死がこの作品の執筆の動機とされている。

## (2) 構成

この作品は全九章から成る。章立ては次の通りである。

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 午後の授業    | 6 銀河ステーション    |
| 2 活版所      | 7 北十字とプリオシン海岸 |
| 3 家        | 8 鳥を捕る人       |
| 4 ケンタウル祭の夜 | 9 ジョバンニの切符    |
| 5 天気輪の柱    |               |

1～5章はジョバンニらの暮らす現実の世界。6章～9章の前半までが夢の中の銀河鉄道の世界。9章後半は再び現実に戻る。教材としては、6・7章が掲出され、それ以外は梗概が掲載されている。

## 7 学級の実態

4月、詩の朗読会を国語の授業で取り組んだ。当初は恥ずかしがってなかなか授業にのれなかった子どもたちが、グループの話し合い活動によって熱心に取り組む表現の工夫、発表の積極性に高まりが見られた。5月に実施した国語の学力検査に於いて、長文読みとりの問題では正解率が低かった。そこで、読書の習慣化はもちろん、読解力・想像力の向上を目的に、学級文庫の設置やブックトークの実施（6月）などを行った。5月・6月・7月と1学期は図書館の貸出冊数も一人あたり平均4～5冊で、ひと月間一度も本を借りたこともない生徒は約5%であった。しかし、2学期になると行事に追われ、教師側からの声かけがないと貸出冊数も激減し、11月は、ひと月貸し出し0冊の生徒がクラス70%に達している。また男子の方が、女子の方より読書意識は高い。（平均個人貸し出し冊数 プラス4冊）7月、「総合的な学習」の時間とタイアップさせて、図書館の本を活用しての調べ学習を行った。意欲的に取り組んだが、自分の課題を解決するために必要な情報を集める読み方が身に付いていない生徒がいて、完成できない生徒がいた。

男子の生活面が比較的落ち着いており、じっくり話を聞く。女子の方は、じっくり話を聞いたり、じっくり考えたりする活動を苦手としている。今回の検証授業に於いて、図書館を活用した「目的や意図に応じて」の読みとり方を学び、それを交流させる授業によって、互いに学び合うことの楽しさを味合わせた。

## 8 学習過程と指導の工夫

課題解決的な学習

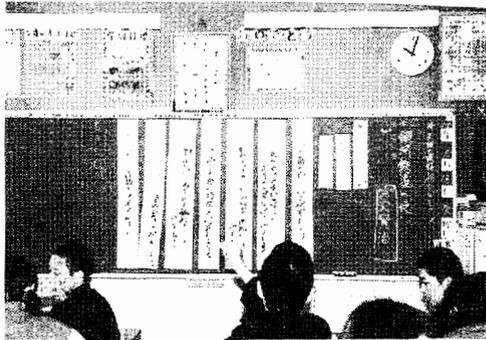
伝え合う力を育てるために「読むこと」の指導工夫として受動的な授業活動を改め、能動的・創造的な活動として「課題解決学習」を取り入れる。調べ読み（必要な情報を読みとるため）の読み方を身に付けさせるため、今回基本教材「銀河鉄道の夜」、発展教材「わたしの宮沢賢治・読書紹介新聞」を設定する。調べ読みによる読書が、伝え合う力を育み、互いに学び合うことの楽しさを味わわせたい。

	情報活用能力	銀河鉄道の夜	読書紹介新聞
考える		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者紹介ビデオの視聴 読みの視点① (作者の生い立ちを作品読みとりに生かす。)</li> <li>・初発の感想をもつことで、興味・関心をもたせる。 読みの視点② (あらすじ、登場人物、印象に残る言葉、わからない言葉、疑問点などをあげる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手意識、目的意識を明確にする。</li> <li>・自分の紹介したい本の決定</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題をみつける</div>	C-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な読みの視点に気付かせるために課題（7つ）は選択して決定する。</li> <li>・調べ読み（情報活用能力）の方法を身に付けさせるための課題を提示。</li> </ul>
読む 書く 聞く 話す		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ノート ← 『情報・資料リスト』の作成 → カード</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の様々な資料（情報）を活用して集める。</li> <li>・資料（情報）の調べ方を身に付ける。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べる</div>	A-1~2 B-1~5 C-1~5 D-1~8 G-1~3 E-1~4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べ読み</div> に必要な具体的な力 <ul style="list-style-type: none"> <li>①叙述に即して読む力</li> <li>②要約したり引用したりするために読む力</li> <li>③言葉の表現、事例を手がかりに読み解く力</li> <li>④「目次読み」「索引読み」「解説読み」などを活用して情報を収集できる読みの力</li> <li>⑤様々な資料（情報）を読み比べる力</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめる</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞き手にわかりやすいように工夫する。</div>

	取捨選択し、聞き手にわかりやすいように工夫してまとめる。	F-1	①OHPの活用 ②調べ読みとったことを、「図やイラスト・表」などに表す。 ③その他	①新聞記事のまとめ方 ②レイアウトの工夫 ③イラストや図の入れ方 ④読みやすい文字 ⑤その他
聞く 話す	発表する 意見の交流	F-2	グループ発表 ・報告会を持って意見を交換する。	個人発表 ・読書紹介新聞を読み合う
			自己の読みを深めたり、互いの読みとりの差異を言葉に注意しながら吟味したりする。 <h3 style="text-align: center;">互いを認め合う心</h3>	

9 指導計画・・・10時間

教材	時間	ねらい	学習内容	場所形態 情報能力
銀 河 鉄	第1時	・問題意識をもって教材を通読し大まかな内容が把握できる。	1 本時の学習を確認する。 2 全文通読 3 初発の感想を書く。 4 グループ分け 5 選択課題の発表	教室
	第2時  課題を見つける。	・作者 宮沢賢治を知ることにより作品の読みとりに役立たせることができる。 ・各グループの選択課題を確認し学習課題を明確にもつことができる。	1 作者 宮沢賢治についてのVTRを見る。 2 感想をまとめたものを基に課題を決定する。 ・多様な読みの視点をもたせることを意図した課題選択を提示 ①登場人物について ②鉄道の車内の様子や窓外の風景について ③物語と星座や星の伝説の関係について ④物語の表現の特徴 ⑤物語に出てくる草花や鉱石について ⑥ジョバンニの心の動きの研究 ⑦自分で課題を決めて研究す	教室  班活動



道			る。 3 グループ内で課題の分担をし、各自の学習課題を確認する。	
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の方法を工夫できる。 (学校図書館の活用)</li> </ul>		
	調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について内容を読みとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 本時の学習活動を確認する。</li> <li>2 資料の探し方の手順を確認する。</li> <li>3 課題解決の方法を工夫する <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の焦点を明確にする。 (グループ会議)</li> </ul> </li> <li>4 自分の活動に必要な資料を確認し情報の取捨選択をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料</li> <li>・インターネット</li> </ul> </li> </ul>	図書館  班活動 A-1~2 B-1~5 C-1~5 D-1~8 E-1~4 G-1~3
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の方法を工夫することができる。</li> </ul>		
	調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について内容を読みとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 本時の学習活動を確認する。</li> <li>2 調べてきた情報から、聞き手にわかりやすいように効果的な表現の仕方を工夫する。</li> <li>3 発表原稿を仕上げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・OHPシートへの表示の仕方の工夫(図やイラストなど)</li> <li>・伝えたいことが明確に伝わるように工夫してシナリオを作る。</li> </ul> </li> </ul>	F-1~2 G-1~3
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返り、学習の成果をまとめることができる。</li> <li>学習したことを発表するための原稿を書くことができる。</li> </ul>		
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題のまとめを発表することができる。</li> </ul>		
本時		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 本時の学習活動を確認する。</li> <li>2 発表の仕方・聞く態度について知る。</li> <li>3 5~6グループの発表を聞き、気づいたことなどをまとめる。 (質疑応答や感想交流)</li> <li>4 相互評価する。(内容・態度)</li> </ul>	教室  班活動 F-2	
発表する				
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題のまとめを発表することができる。</li> </ul>			
発表する		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 本時の学習を確認する 3~4グループの発表を聞き、気づいたことなどをまとめる。</li> <li>3 質疑応答によって「読み」を深めたり広げたりする。</li> <li>4 読書発表会に向けての取り組み説明を聞く。</li> </ul>	教室  班活動  F-2	
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自で、宮沢賢治の作品一つを選び、読書紹介新聞を作ることができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 本時の学習活動を確認する。</li> <li>2 新聞の書き方についての説明</li> </ul>	

わたしたしの宮沢治	第 8 時	課題を見つける		3 相手意識 (クラスの仲間へ) 目的意識 (本を紹介する) を明確にする。 4 記事 (情報) の集め方について考える。(情報・資料リストの作成) ・宮沢賢治について生き立ちや生き方, 考え方についてまとめる。 ・作品のあらすじをまとめる。 ・登場人物について考える。 ・宮沢賢治特有の文章表現についてまとめる。 ・賢治の作品同士比べて読む。 ・その他	図書館 個人活動 C-1~5 D-1~8 E-1~4
	第 9 時	調べる			
	まとめ	・それぞれの課題について, 自分なりの読みをまとめ, 工夫した方法で表現することができる。	1 読んだり調べたりしたことを工夫してわかりやすく表現し, 新聞にまとめる。 ・情報・資料リストの活用(情報の取捨選択, 要約など) 2 読書紹介新聞を仕上げ提出	図書館 個人活動 E-1~4 F-1~2	
第 10 時	発表する	・新聞を読み合い, 意見の交流を図る。		1 読書紹介新聞を読んでわかったこと, 感じたことをプリントに記録する。 2 お互いの感想を発表し合う。	教室 個人活動 F-1~2

\*学校図書館司書との連携

1 12月より宮沢賢治コーナーを設置して賢治の作品を紹介

2 「調べ学習」に必要な本のリストアップ

3 コンピュータ (インターネット) の利用

\*浦添市立図書館の活用へ (公立図書館活用を生徒に呼びかける) (関係図書のリストアップ)

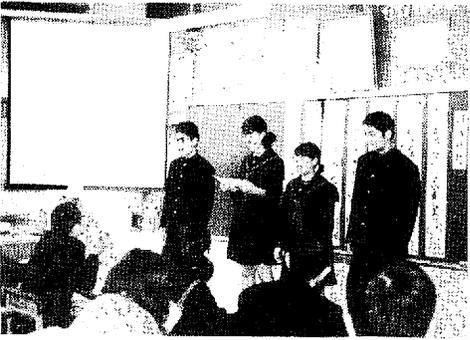
10 本時の目標

- (1) 文章に表れているものの見方や考え方を理解し, 自分のももの見方や考え方を広くすること。
- (2) 自分の考えや気持ちを的確に表すために, 適切な材料を選ぶこと。

11 本時の展開

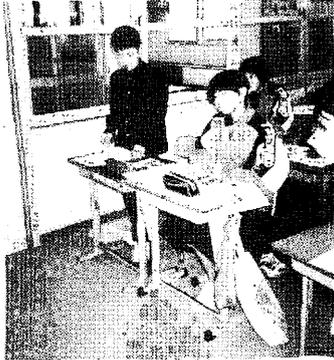
授業仮説

調べ読みとったことや自分のももの見方・考え方を交流する場を設定すれば, それぞれの読みの視点によって言葉や内容の印象の違いや表現上の違いなどの特徴に気づき, 多様な視点で「作品を読む」楽しさを味わうことができるであろう。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
導 入	<p>・出席確認</p> <p>1 今日の学習活動を確認する。</p> <p>2 発表の仕方・聞く態度を確認する。</p> <p>3 課題について調べたことを発表する。</p>	<p>・一人一人の健康状態をチェックする。</p> <p>・学習の目的をもって授業に参加することで、興味・関心を持って授業向かわせる。</p> <p>・一番伝えたい内容を、聞き手に効果的に伝わるように工夫することを確認する。</p> <p>・発表を聞いて、同じ点・異なる点、初めて知ったことや疑問に思ったことを確認させる。</p> <p>・4~5グループ発表させる。</p> <p>・OHPを使用しての発表なので取り扱いにトラブルがないように注意する。</p> <p>・課題を解決するために、どの資料を使って調べ、それを取捨選択し、課題に沿った情報で内容を読み取っているか確認する。</p> <p>・記入時間は1分程度なので、メモ程度の記入にとどめ、後でまとめさせる。</p> <p>・時間の関係で、発表できないグループは、次の時間に発表させる。</p>	<p>意欲・関心・態度</p> <p>ワークシートの記入</p> <p>・聞き手にわかりやすいまとめ方を工夫しているか。 (OHPシートへの表現方法のチェック)</p> <p>・調べ読みとったことを分かりやすく伝えるように、図やイラストなどに表現したり、引用部分や感想部分も工夫してまとめて発表しているか。</p> <p>・情報を整理して伝えたい内容をはっきりさせまとめているか。</p> <p>・様々な種類の文</p>
展 開	 <p>4 発表を聞いて、わかったことや疑問に思ったことなどをワークシートに記入する。</p>		

終  
結

5 質疑や感想を発表し、意見の交流を図る。



6 本時のまとめ

・自分の読みとりの共通点・相違点に気付かせる。

・多様な視点での「読み」の面白さに気付かせる。

・感想プリントは次の時間提出することを伝える。

章から必要な情報を集めるための読み方をしているか。

(読む力)

発言チェック

## 12 本時の評価

(1) 自分の考えや気持ちを的確に表すために、工夫して発表することができたか。

(2) 発表を聞いてお互いの意見を交流することで、互いの共通点・相違点に気づき作品を読む楽しさを味わうことができたか。

### Ⅷ 研究の考察

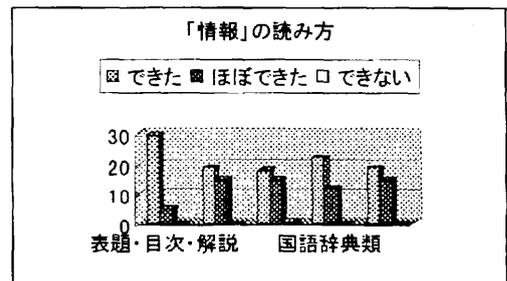
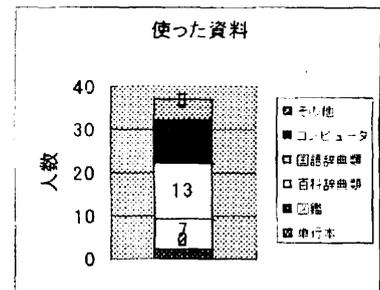
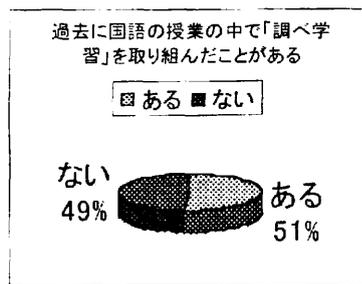
#### 1 作業仮説の検証

##### (1) 作業仮説 1

学校図書館を計画的・系統的に活用することによって、必要な情報があるか表題や目次から読みとったり、印を付けながら読み進めたり、書き抜きしながら読むことなどができ、主体的に学ぶ「調べ読み」の読み方が身に付くであろう。

過去に、学校図書館を使つての国語の「調べ学習」を51%の生徒が経験しているが、具体的に活用した資料を見ると、単行本（表題・目次・あとがき・解説など）を使つての「調べ読み」がなされていなかった。基本教材「銀河鉄道の夜」、発展教材としての「読書紹介新聞」を通して「調べ読み」の方法を体系的、意識的に取り入れた検証授業後のアンケート結果を見ると、課題解決のために様々な資料〔図鑑・百科事典類・国語（漢和）辞典・その他の資料〕を使って情報を収集「できた」「ほぼできた」あわせて各項目80%以上、「表題、目次、あとがき、解説などから情報を集めることが（A できた85%）（B ほぼできた15%）」と答えている。

子どもたちの感想には、「調べ方がわかって楽しい。」「いろんな種類の本を実際に使ってみて調べ方がわ



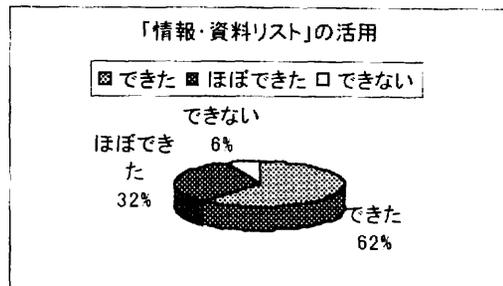
かった。」「本の解説や目次を使って調べることが、初めてわかった。」などがあった。

2つの教材を使って学校図書館を系統立て「調べ読み」の活動を行ったことで、様々な文章から必要な文章を集めるための読み方を身につけることができたと思う。

(2) 作業仮説 2

課題解決のために、「情報・資料リスト表」を活用させることによって、様々な文章から読み取ったことを取捨選択、分類・整理ができ、その課題に対する自分のものの見方や考え方を持てることができるであろう。

「情報・資料リスト表」を初めて作成して情報読み取りに活用した基本教材「銀河鉄道の夜」では、グループ形態の取り組みで、「話し合い活動」を基に、「情報・資料リスト」の取捨選択や分類・整理を行った。課題に対して読みとった内容を「OHPシートにわかりやすくまとめる。」(情報活用能力 F-1, G-1) ことは、全グループが達成できた。「情報・資料リスト表」の活用は不十分なので、「情報・資料リスト」の活用を意識させるため、発展教材「読書紹介新聞」で「リストの作成」「リストの検討」の時間を設定した。この時、「情報・資料リスト表」の『保存』(情報活用能力G-2)・『蓄積』(情報活用能力 G-3)も含めて考えて「リスト作成・検討」に入るように指示した。その結果読書紹介新聞作成後のアンケートでは、上記のように94%の生徒が「情報・資料リスト」を活用できた(ほぼ活用できた)と答えている。読みとった情報が、リストの活用によってそれぞれの見方・考え方が明確化され、そのことで「わかりやすくまとめる」作業の達成へつながったと考える。



授業を終えての感想に、「宮沢賢治の生き方がすごい。」「言葉一つについてたくさん考えた」など、自分自身の考えをしっかりと持てたといえる。よって、「情報・資料リスト」の活用は有効だったといえよう。

情報・資料リスト

学号	資料名	出版社	内容	ページ	備考
913	雨ニモマテズ	岩崎書店	11月3日に書いた雨ニモマテズの詩	22p	◎
913	雨ニモマテズ	岩崎書店	雨ニモマテズを書いた時の賢治の姿	22p	X
	国語活田女資料集	新学社	賢治の一生にまつて	24p	○
913	雨ニモマテズ	岩崎書店	他の本で賢治の生き方の本題の分	213p	○
813	国語大事典	学習研究社	アノボク(木下尚江)の生き方(木下尚江)	1327p	○

(3) 作業仮説 3

伝え合う力を高めるために、調べ読みとったことを交流する場を設定することによって、互いの共通点や相違点に気づき、新たな読みの視点を発見し、互いに学び合う楽しさを味わうことができるであろう。

生徒の交流会①「銀河鉄道の夜：課題発表会」の感想発表より、「共通点」として、右記の1点が感想発表で挙げられた。「相違点」としては、右記の2点が挙げられた。また、感想の中に、自分の読み取りの視点以外に「新しい読みの視点」を発見したことから、「こんな読み取り方(自分の読み取りの視点以外)は、一「おもしろい」「すごい」「良く理解できた」などの意見が多数見られた。

交流会②として「読書紹介新聞報告会」後のアンケ

交流 ①「銀河鉄道の夜」課題発表会  
生徒の感想より

〔グループにてOHPシートにまとめて発表〕

共通点 \*教科書には「三角形」「四辺形」としか書かれていないのに、②グループ・③グループとも「星座」と結びつけて調べていた。

ート「宮沢賢治の本をもっと読んでみたいと思うか。」という問いに、82%の生徒が「強く思う」と答えている。以下授業に取んでの感想を挙げる。

Nくん	最初「自分で調べて物語を読む」授業をされると言われても、意味が分からず、正直どんな風にして調べ読むのかわかりませんでした。「解説」からいろいろ調べることができるのが初めてわかりました。
Sくん	わからないことを調べて、その答えが見つかったからうれしかったし、それをもとにして、考えることも楽しかった。本をもっと読みたいと思った。
Mさん	自分で調べて物語を読んでいくのは、とても楽しい。あれこれ想像できた。OHPシートにまとめるのは大変だったけど、一番楽しかった。
Tくん	聞くだけの授業は、ドキドキしないけど、調べたり、発表したりするのはドキドキしたけど、よかった。友達の考えが聞けて、「すごい」と思ったし「あっそうか」と思った。内容がわかると、本を読むのは楽しい。
Hさん	今回の「調べ学習」は、自分で調べて、考えて、それが正しいかまた調べて、結論を出して、みんなの考えを聞くことができたので楽しかった。賢治の本、いっぱい読みました。「詩」が好きになりました。

授業後のアンケート「調べ読んで交流していく授業を今後も取り組みたいか」という問いに、94%の生徒が「強く思う」と答えている。また、図書館の「クラス貸し出し冊数の平均」「貸し出し0冊の生徒」の結果を見ても、12月に「宮沢賢治コーナー」を設置していただいた頃から、授業に取り組んだ1月までの、この2ヶ月の間に、読書に対する意欲が高まったと見ることができるであろう。つまり、主体的に読み取り、その読みとったことを交流する授業を通して、互いに学び合う楽しさを味わうことができたと考えられる。

## IX 研究の成果と課題

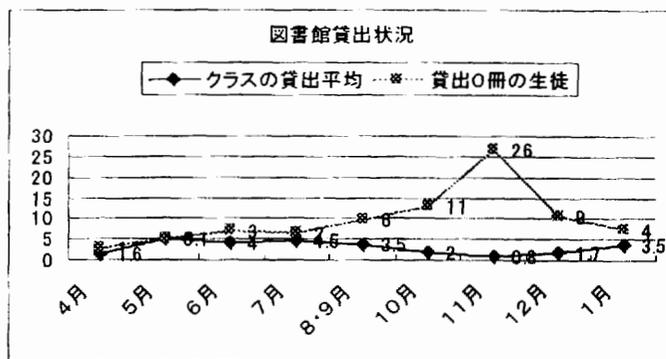
### 1 成果

すごい。
*②グループ・③グループとも「星座について」調べていたが、OHPシートにまとめるとき、②グループは「地図」、③グループは「星座のイラスト(絵)」にまとめていた。
*「宝石」のイメージについて⑥グループは「さめざめしたもの・冷たさ」と読みとって、⑧グループは「美しいもの・あこがれの世界」と読みとっている。違う読み取り方がおもしろい。

新しい読みの視点



- 1 「星座」の動き・配置や伝説から本文の読み取りへ
- 2 作者の生い立ちからの本文読み取りへ
- 3 本文の中にある「キーワードになる言葉」(鉱石や星、様々な色)と「作者の生い立ち」との関連性の気付き



- ① 課題解決のために、学校図書館を活用して情報や資料を読みとる「調べ読み」の方法が生徒に身に付いた。
- ② 調べ読みの方法が身についたことで、意欲をもって課題を追究し、主体的に学習する楽しさを体験できた。
- ③ 課題解決のために集めた情報を的確に読みとれたことで、自分のものの見方・考え方をもつことができた。
- ④ 情報を取捨選択、再構築し交流する授業展開を通して、互いに学び合うことができた。
- ⑤ 学校図書館司書との連携が図れたことで、スムーズな授業展開ができた。

## 2 課題

- ① 国語科情報活用能力体系表の国語科年間指導計画への位置づけ
- ② 「情報・資料リスト表」の記録方法や保存方法の工夫
- ③ 図書館の利用計画（各教科との調整）

### おわりに

「図書館って楽しい。」一人でも多くの子ども達に宝物がつまっている図書館を大いに活用してほしいという思いが、この研究を始めたきっかけでした。課題を解決するために、友人と語り、多くの本に触れ、コンピュータを活用していく調べ読みの過程で子ども達の表情が生き生きと輝いてきました。本の世界を一つの言葉や表現から想像する楽しさ、友との語りや交流会の中から自分を見つめたり、考えを深めたりするおもしろさ。そこから「もっと本を読みたい。」という子ども達の思いが生まれてきました。その瞬間を共に体験できたこととても幸せだと思います。

最後になりましたが、本研究所の大城所長、新川係長、山里主事には、多くの貴重な御指導、御助言ありがとうございました。深く感謝申し上げます。そして、研究所職員の皆様には、大変お世話になりました。

更に、本研究所での研修の機会を与えて下さった仲西中学校仲西校長先生、松岡教頭先生、占謝教頭先生。また、教科指導員、港川中学校の平安先生、そして、浦添市教育委員会の先生方には、厚く御礼申し上げます。

### 《主な参考・引用文献》

- ・『中学校学習指導要領』 文部省（平成10年度版）
- ・『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－国語編－』 文部省
- ・『新国語科「言語活動例」の具体化－情報を活用する学習』 明治図書
- ・『実践国語研究 2000：10／11 No213』 明治図書
- ・『実践国語研究 2001：12／1 No215』 明治図書
- ・『教育科学 国語教育 2000：11 No598』 明治図書
- ・『中学校新国語科の授業モデル〈3〉「読むこと編」』河野康介編著 明治図書（2001）
- ・『小学校・中学校における学校図書館の利用と指導』 文部省（平成9年7月）
- ・『子どもが生きる学校図書館』熱海則夫 長倉美恵子 編著 ぎょうせい（2000）
- ・『平成5年～7年 浦西中学校研究資料』
- ・『情報活用能力を育てる国語科新単元学習』 明治図書
- ・『中学校国語 基礎基本事例集』 沖縄県教育委員会（平成14年度改訂版）